

**第9回再発防止対策検証委員会資料**

**発電設備に関する再発防止対策の  
実施状況について**

**平成21年3月6日**  
**北陸電力株式会社**

## 平成20年度 再発防止対策検証委員会 審議計画

### 第7回 再発防止対策検証委員会 (平成20年8月4日)

- 議題
- ① 自律的・継続的な改革・改善活動の推進・支援
  - ② 請負者との協働体制推進
  - ③ 社員のコンプライアンス意識の状況

### 第8回 再発防止対策検証委員会 (平成20年12月10日)

- 議題
- ① 隠さない風土づくり
  - ② 安全文化の構築

### 第9回 再発防止対策検証委員会 (平成21年3月6日)

- 議題
- ① 社外とのコミュニケーション充実
  - ② H20年度再発防止対策の取り組みに対する総括

# 目 次

- I 個別重点テーマの検証
- II H20年度再発防止対策の実施状況・効果の確認結果
- III 第7回、第8回再発防止対策検証委員会で  
いただいたご意見について
- IV 再発防止対策の進捗率一覧

## I 個別重点テーマの検証

### 1. 社外とのコミュニケーション充実

- (1) 地域への「安全最優先」メッセージの継続的な発信
- (2) 報道機関への取材機会の提供
- (3) 「『安全最優先』の継続的な情報発信」に関するアンケート結果
- (4) 地域の皆さまとの双方向の対話活動の推進
- (5) 「地域の皆さまとの双方向の対話活動」に関するアンケート結果
- (6) 「安全最優先」の社内への継続的な周知徹底

テーマ

# 1. 社外とのコミュニケーション充実 (1/11)

## (1) 地域への「安全最優先」メッセージの継続的な発信 (H20/4~H21/2月)

- ▷ 志賀町ケーブルテレビ : **H20/10から情報提供・放送を開始** (詳細次ページ)
- ▷ 新聞広告 : **計 42回** (7紙)
- ▷ テレビ・ラジオCM : **計 1,286本** [テレビ(9局) 889本・ラジオ(6局) 397本]
- ▷ ホームページ : **随時更新** 再発防止対策検証委員会審議状況 等
  - ・利用者数 計 44万人
  - ・対策関連画面アクセス 計 10万人
- ▷ 広報誌(えるふぷらざ) : **計 2回** 再発防止対策の取り組み状況等を紹介<当社管内全世帯>
- ▷ 原子力広報誌(ハマナスねっと) : **計 6回** 発電所情報を提供<志賀町全世帯>
- ▷ チラシ等(志賀2号機運転再開) :
  - ・ダイレクトメール送付(H20/6月)<志賀町全世帯>
  - ・新聞折込チラシ配布(H20/6月)<隣接市町>



【新聞広告】



【えるふぷらざ夏号：再発防止対策の取り組み状況】

・「安全最優先」メッセージの発信については、タイミング、効果を考慮し、継続的に実施。

# 1. 社外とのコミュニケーション充実 (2/11)

## 志賀町ケーブルテレビを活用した情報提供

H20/10月から文字放送、映像放送を活用し、番組提供を開始

文字放送(5分番組×15回放映/日)

▶最新のデータを分かり易く提供する仕組みを構築

- ・「発電所敷地内・周辺の環境放射線観測データ」
- ・「発電所電気出力等測定データ」

▶提供すべき情報を速やかに提供できる仕組みを構築

- ・志賀町と当社事務所(地域社会部)を専用回線で直結  
更新実績 13回 (H20/10~H21/2)

映像放送(10分番組×3回放映/日)

- ・当社女性社員がレポーターとして出演し、現場の映像等を交えて発電所情報を視覚的に伝達。
- ・原子力本部長や発電所長が出演し、分かり易く説明。

- ・「これについて知りたい」「ここが分からない」等、対話活動で聞かれた質問を取り入れ、放映。  
例)耐震安全性、原子力本部紹介等



【ケーブルテレビ文字放送画面】



【当社女性レポーター】

## 1. 社外とのコミュニケーション充実 (3/11)

## (2) 報道機関への取材機会の提供 (H20/4~H21/2月)

再発防止対策や安全性向上に関する情報発信を強化するため、**報道機関による現地取材の機会を適時適切に提供し、当社の取り組みへの理解を深めるとともに積極的な情報公開姿勢をアピール。**

## ■原子力の信頼度向上のための報道公開 (計 8回)

報道公開した内容	(公開日)	[取材した報道機関]
①志賀2号機 定検終了証交付	(6/11)	[新聞6社・テレビ5局]
②志賀2号機 運転状況	(6/17)	[新聞8社・テレビ7局]
③第7回再発防止対策検証委員会	(8/4)	[新聞6社・テレビ4局]
④低レベル放射性廃棄物の輸送	(9/16)	[新聞7社・テレビ5局]
⑤原子力防災訓練	(11/14)	[新聞9社・テレビ6局]
⑥消防車庫完成・消防車出動式	(11/28)	[新聞5社・テレビ3局]
⑦第8回再発防止対策検証委員会	(12/10)	[新聞9社・テレビ4局]
⑧志賀1号機 耐震裕度向上工事	(12/18)	[新聞9社・テレビ5局]



【志賀2号機 定検終了証交付】



【原子力防災訓練】



【志賀1号機 耐震裕度向上工事】



# 1. 社外とのコミュニケーション充実 (4/11)

## ■信頼回復を目指した「電気の安定供給を守る取り組み」の報道公開 (計 19回)

報道公開した内容	(公開日)	[取材した報道機関]
①総合制御所 事故復旧競技会	(6/13)	[新聞5社・テレビ2局]
②技術マスター認定式	(8/26)	[新聞3社]
③送電保守技能競技会	(8/26)	[新聞3社・テレビ3局]
④七尾大田火力発電所の運転状況	(9/8)	[新聞7社・テレビ5局]
⑤敦賀営 配電事故復旧訓練	(9/17)	[新聞2社]
⑥神通川第二発電所の修理工事	(10/8)	[新聞4社・テレビ3局]
⑦石川支店 配電事故復旧訓練	(10/22)	[新聞2社・テレビ2局]
⑧舳倉島発電所の運転状況・燃料受入	(10/24)	[新聞3社]
⑨配電工事安全技能大会	(11/13)	[新聞4社・テレビ1局]
⑩西勝原第二発電所の導水路点検	(11/18)	[新聞4社・テレビ2局]
⑪間接活線工法・避雷器設置工事	(12/9)	[新聞3社・テレビ3局]
⑫福井支店 停電事故探査復旧訓練	(12/9)	[新聞1社]
⑬高岡支社 瑞龍寺の電気設備点検	(1/15)	[新聞1社・テレビ1局]
⑭～⑰各支店支社 冬季停電復旧訓練(1/22～2/5)	[延べ]	[新聞15社・テレビ6局]



【総合制御所事故復旧競技会】



【七尾大田火力発電所運転状況】



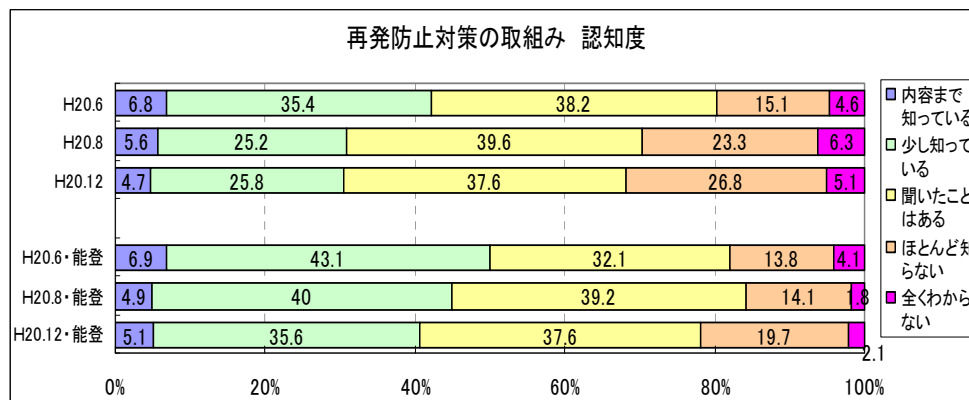
【神通川第二(水力)発電所修理工事】

- ・原子力については従来どおり注目度が高く、石川県内を中心に大きく報道されている。
- ・「安定供給を守る取り組み」についても概ね好意的、かつ期待以上に大きく報道されており、取材した記者からは「普段見られない設備等の取材ができて良い」、また一般の方からも「電気ができる苦労がわかって良い」等、評価を得ている。



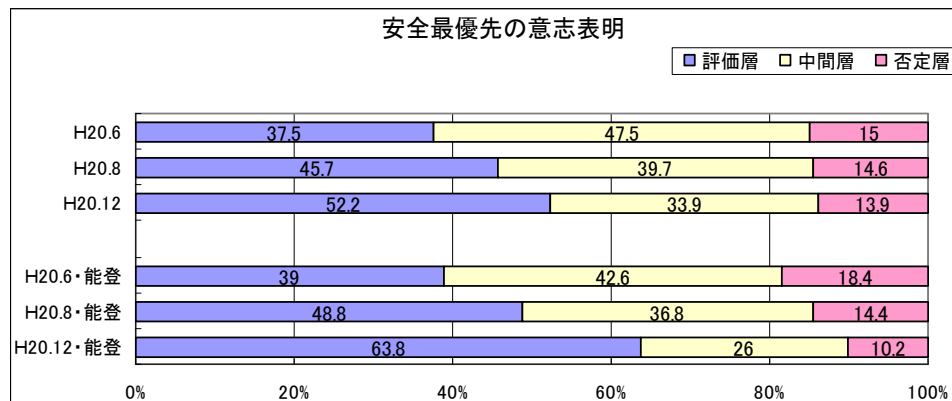
## (3) 「『安全最優先』の継続的な情報発信」に関するアンケート結果

【インターネット調査(北陸三県・600サンプル/回、H20/6・8・12月実施)】



### ■再発防止対策の取組みの認知度

- ・「内容まで知っている・少し知っている・聞いたことはある」の認知層は約7～8割を占めた。
- ・能登エリアの認知層も8割程度。

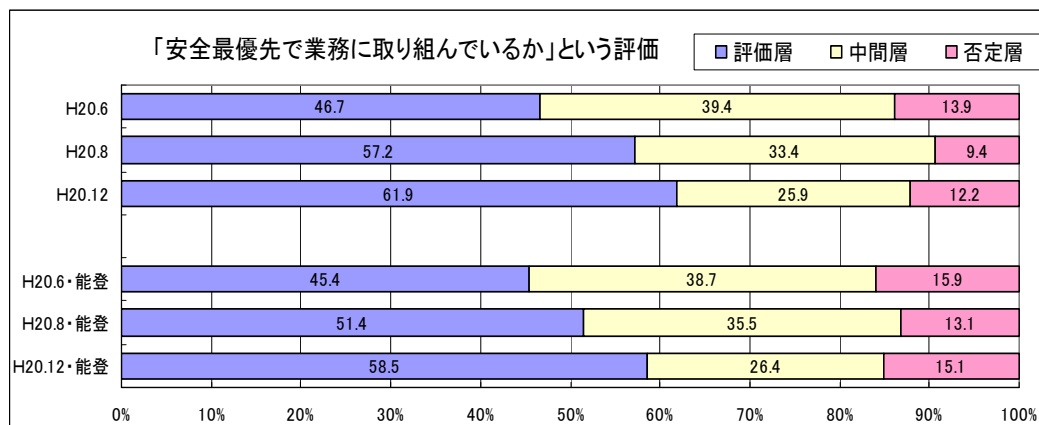


### ■「安全最優先の意志表明」の取組みの評価

※再発防止対策の認知層を対象に確認

- ・評価層は(6月) 38%→(12月) 52%に増加。
- ・能登エリアにおいても、評価層は(6月) 39%→(12月) 64%に増加。

評価層：評価できる・どちらかといえば評価できる  
 中間層：どちらともいえない・全くわからない  
 否定層：評価できない・どちらかといえば評価できない



## ■「安全最優先で業務に取り組んでいるか」という評価

- ・評価層は  
 (6月) 47% → (12月) 62%に増加。
- ・能登エリアにおいても、評価層は  
 (6月) 45% → (12月) 59%に増加。

評価層：評価できる・どちらかといえば評価できる  
 中間層：どちらともいえない・全くわからない  
 否定層：評価できない・どちらかといえば評価できない

・再発防止対策の認知層は約7割以上を占め、「安全最優先の意志表明の取り組み」、「安全最優先での業務への取り組み姿勢」に対する評価層は増加。

⇒ 今後も適時適切な安全最優先の情報発信を継続

## (4) 地域の皆さまとの双方向の対話活動の推進 (H20/4~H21/2月)

地元をはじめ北陸地域の議員、自治体、経済団体や婦人会などの各種団体に出向き、**双方向の対話活動を継続実施**

### ①北陸地域の有識者との対話活動(訪問)の実施

**延べ約4,700名**

### ②各種団体の皆さまとの対話活動(説明会・見学会)の実施

**計 528回**

(発電所見学会の中での実績(再掲)265回)



【石川県 当社主催消費者会合での対話活動】



【富山県 当社主催消費者会合での対話活動】

	経済団体	婦人会	教育関係	自治体等	当社会合	合計
富山県	14	9	29	57	60	169
石川県	11	60	8	168	49	296
(地元※再掲)	(7)	(48)	(0)	(95)	(2)	(152)
福井県	0	17	1	17	28	63
合計	25	86	38	242	137	528

※志賀町および隣接市町

# 1. 社外とのコミュニケーション充実 (8/11)

## ③地元の皆さまとの広聴・対話活動、理解活動の実施

### ▷ 日常対話活動の実施

日頃の訪問活動を通して住民の目線に立った情報発信・対話活動を実施。  
また、女性を含む専門チームを設置し、婦人層を中心に双方向対話活動を強化。

### ▷ 各界・各層への適時・的確な情報提供

自治体、議会、各種団体等への発電所情報(トラブルを含む)の  
適時・的確な提供による理解活動を展開。

対応実績 19回    対応者数 延べ 約3,000名

### ▷ 勉強会・見学会の開催による理解活動の展開

公民館等を利用し、膝と膝を付き合わせた勉強会を通じて地元  
の方々の意見・要望等を汲み取り、理解活動を実施。(56回、  
1,472人)

さらに、新たな取り組みとしてクラフト教室等を活用した原子力に  
絡めた環境講座も開催。(26回、396人)

また、各種団体の方々に積極的に接触を図り、発電所構内及び  
ギャラリーの見学を通じて実際に見て感じていただく機会を提供  
し、理解活動を実施。(56回、962人)



【専門チームによる対話活動】



【志賀町・当社主催の勉強会】

## 1. 社外とのコミュニケーション充実 (9/11)

## ④地域の皆さまからの主なご意見 (H20/4~H21/2月)

## 再発防止対策

- ・些細なことまで報告してもらい、北陸電力は変わってきていると思うが、トラブルは単純な人為ミスなので更に頑張ってもらいたい。  
(志賀町 地元住民)
- ・原子力本部社員の皆が様々な会合に足を運んでいろいろな人と接することは良い。ただ、信頼関係は一朝一夕でできるものではないので、時間をかけることが大事。  
(志賀町 町内会)
- ・市民としては安定した電気を低廉な料金でお願いしたい。今後とも信頼回復に向けしっかりと対応していただきたい。信頼回復は一朝一夕にはならない。  
(石川県 市町村首長)
- ・原子力は大事なもの。トラブルがあっても公表し、安心してもらえるようがんばってもらいたい。  
(富山県 女性団体)

## その他

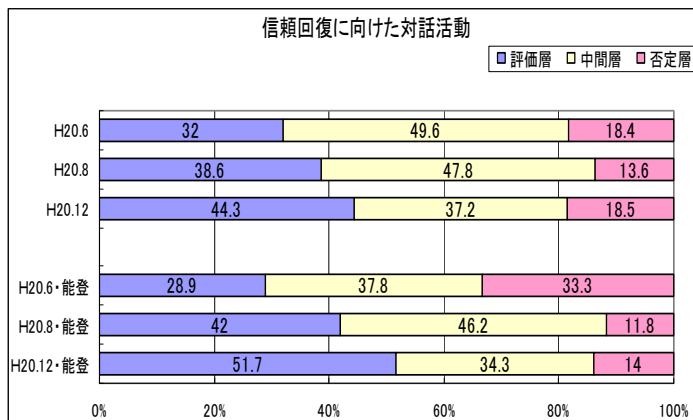
- ・2号機同様1号機についてもきっちりと耐震工事を行って安全確保してから再起動していただきたい。  
(石川県 漁業団体)
- ・電気代の値上げも仕方ないと思うが、電力も省エネ等いろいろ努力していることをPRして一般の人達にも知ってもらう必要がある。  
(石川県 女性団体)
- ・燃料価格高騰もあり、原子力発電所を安全・安心に運転してもらうことを希望している。  
(富山県 経済団体)
- ・二酸化炭素を出さない原子力は必要だと思うが、事故が心配。原子力の安全性について、もっとわかりやすく説明するのが望ましい。  
(福井県 公募見学会参加者)

- ・再発防止対策の当社の取り組みは概ねご理解いただいております、今後も「安全運転」と「情報公開」を要望されている。
- ・地元では志賀原子力発電所の「安全・安心」を求める意見がほとんどであり、引き続き原子力本部社員は日頃の地道な活動を継続するべきとの声もあった。

## (5) 「地域の皆さまとの双方向の対話活動」に関するアンケート結果

【インターネット調査(北陸三県・600サンプル/回、H20/6・8・12月実施)】

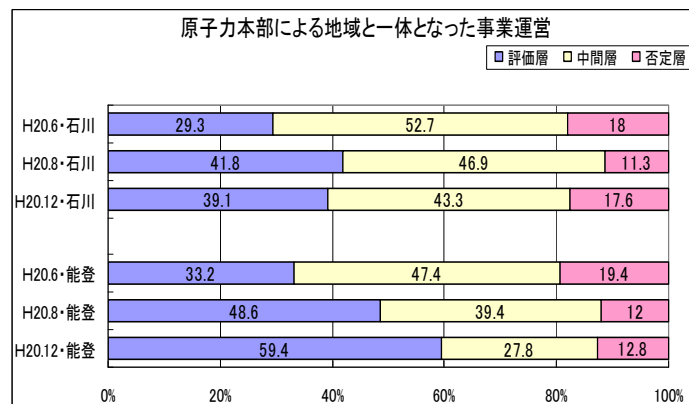
評価層：評価できる・どちらかといえば評価できる  
 中間層：どちらともいえない・全くわからない  
 否定層：評価できない・どちらかといえば評価できない



### ■「信頼回復に向けた対話活動」の評価

※再発防止対策の認知層を対象に確認

- ・評価層は(6月) 32%→(12月) 44%に増加。
- ・能登エリアにおいても、評価層は(6月) 29%→(12月) 52%に増加。否定層は、6月は33%だったが、8月・12月には12%~14%までに減少。



### ■「原子力本部による地域と一体となった事業運営」の評価

※再発防止対策の認知層を対象に確認

- ・石川県内の評価層は(6月) 29%→(12月) 39%に増加。
- ・能登エリアにおいても、評価層は(6月) 33%→(12月) 59%に増加。

・「双方向の対話活動」、「原子力本部による地域と一体となった事業運営」に対する評価層は増加。  
 ⇒ 今後も双方向の対話活動を継続的に実施



# 1. 社外とのコミュニケーション充実 (11/11)

## (6) 「安全最優先」の社内への継続的な周知徹底 (H20/4~H21/2月)

### ▷社内報 :計 10回

- ・原子力本部長メッセージ(隠さない風土と安全文化の定着)を掲載
- ・コンプライアンス研修の紹介
- ・技術マスター特集を掲載 等

### ▷TV社内報 :計 15回

- ・社長放送(安全最優先の企業文化の定着)
- ・安全文化等に関する啓発活動「みんなでしっかりやっ払いこう」の紹介
- ・再発防止対策検証委員会の紹介 等

### ▷パソコンのポータルサイト :計 13回

- (社長メッセージを掲載)
- ・夏場の電力安定供給確保と災害の防止について
- ・職場コミュニケーションで安全文化の確立を 等

### ▷「安全宣言ポスター」の掲示

- ・各職場にて従業員がメッセージを記入し掲示

### ▷「安全行動宣言カード」の携帯・活用(今年度から)

- ・全従業員が“私の行動宣言”を記入したカードを携帯



【社内報：原子力本部長メッセージ】



【安全宣言ポスター】

## Ⅱ H20年度再発防止対策の実施状況・効果の確認結果

### H20年度再発防止対策の実施状況＜概要＞

1. 隠さない風土づくり
  2. 安全文化の構築
  3. 自律的・継続的な改革・改善活動の推進・支援
  4. 社外とのコミュニケーション充実
  5. 請負者との協働体制の推進
  6. 再発防止対策の定期的な評価・改善
- 今後の取り組み

## H20年度再発防止対策の実施状況＜概要＞

### 再発防止対策の実施状況

・平成20年度、中期的な経営の基本方針である「安全確保を最優先とする事業運営の徹底」と「信頼感と活力ある企業風土の醸成」の実現に向けた企業風土改革のための取り組みとして、前年度に策定した再発防止対策に引き続き取り組んだ。

・今年度は、「隠さない風土づくり」、「安全文化の構築」、「自律的・継続的な改革・改善活動の推進・支援」、「社外とのコミュニケーション充実」、「請負者との協働体制推進」を重点に、再発防止対策(対策数:28)を、全て計画通り着実に実施した。

- ▷ 研修、集団討議等、実施回数や人数で目標管理する施策については、全て年度内に進捗率100%を達成する見込み
- ▷ 異常事象の对外通報、保安の監督の徹底等、進捗率で管理しない施策については、全て確実に実施
- ▷ 制度や体制等の「仕組みづくり」については、H19年度中に完了

・各対策の実施にあたっては、実施状況や効果を確認・評価し、更なる改善に結びつけるため、社長を委員長とする「原子力安全信頼回復推進委員会」を39回開催し、社内関係機関・部門の長に必要な指示を行いPDCA\*サイクルを確実に回すことで、フォローアップを実施している。

\* Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)

# 1. 隠さない風土づくり (1/3)

## (1) 迅速かつ確実な对外通報・報告の徹底 <第8回委員会報告>

### <第一報の作成・発電所駐在の保安検査官等への通報実績> (H20/4~H21/2月)

- ・ 通報総数：**1,383件 (約130件/月)** - 殆どが石川県・志賀町への連絡対象外の事象
- ・ 不適合処理書類等との比較により、第一報の作成漏れ、通報漏れがなかったことを確認

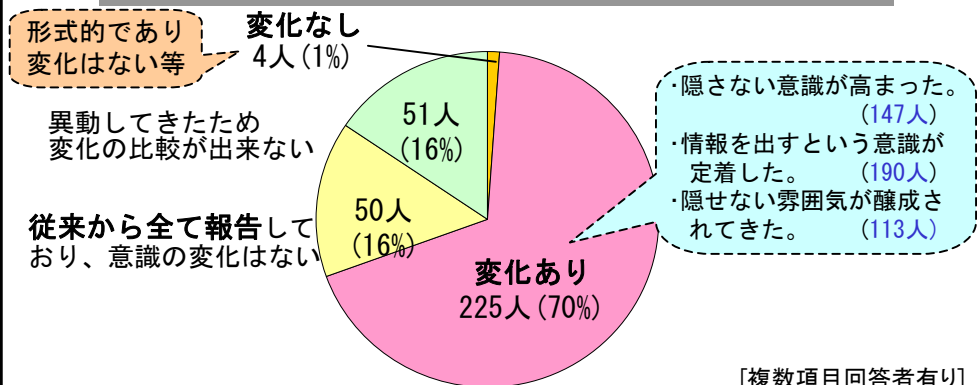
### <発電所長・原子炉主任技術者から社長への報告> (H20/4~H21/2月)

- ・ 国・石川県・志賀町へ速やかに連絡すべき事象およびその可能性のある事象の社長への報告：**3件**
- ・ 社長への定期報告：**6回** (四半期分:4回、半期分:2回)

### <発電所員の意識変化について>

Q. 全ての異常事象を通報することで、「隠さない・隠せない」観点での意識の変化はあったか？

#### H20/9月のアンケート結果 <回答数322人>



- ・ 第一報の作成・通報が確実に実施され、情報を出すという意識が高まる等、「**隠さない・隠せない意識**」は所員に**着実に定着**している。
- ・ 今後も継続して「隠さない」意識のさらなる定着を図る。

# 1. 隠さない風土づくり (2/3)

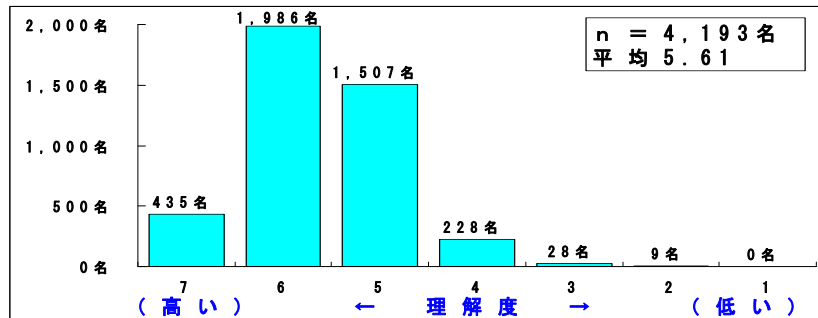
## (2) コンプライアンス教育の実施 <第8回委員会報告> NEW

### ① 一般職へのコンプライアンス研修

・集合研修を101回実施 (H20/4~12月)

**【1月末実績】 新入社員を含め 4,193名受講(完了)**

・研修受講後のアンケート調査 (H21/2月末)  
(質問) 研修内容について理解できたか。

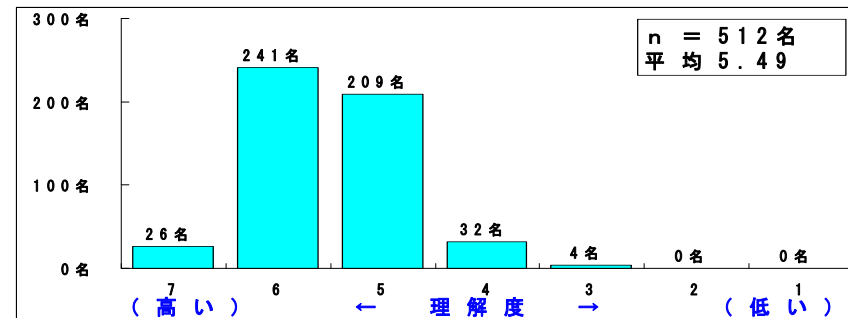


### ② 特別管理職へのコンプライアンス研修

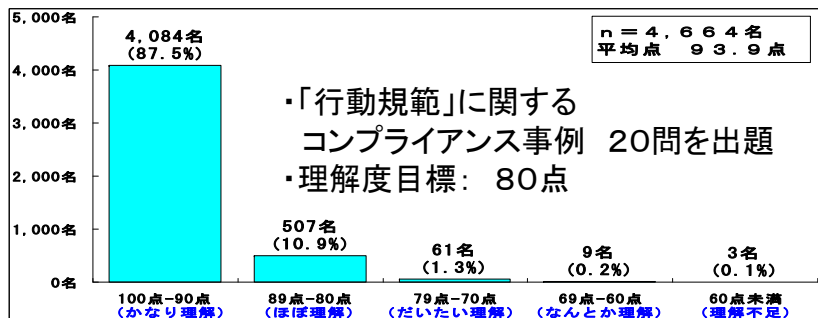
・集合研修を4回実施 (H20/8~9月)

**【1月末実績】 512名受講(完了)**

・研修受講後のアンケート調査 (H21/2月末)  
(質問) 研修内容について理解できたか。



### ③ 習熟度検査の実施 NEW (H20/12~H21/1月)



・研修を計画通り開催し、アンケート調査結果から、**大部分の受講者は、研修内容を理解している**と評価できる。  
・受講後の習熟度検査では、理解度の**目標点(80点)以上の社員が「98.4%」**であり、コンプライアンスに対する理解度が高いことを確認した。

## (3) コンプライアンスメールマガジンの発信 <第8回委員会報告>

○メールマガジンの発信状況 (H21/2月末)

- ・「永原だより」： **11回** (計画12回)
  - ▷ コンプライアンス等に関する 社長自身のメッセージ
- ・「コンプライアンスメールマガジン」： **11回** (計画12回)
  - ▷ 総務部からの 最新情報提供

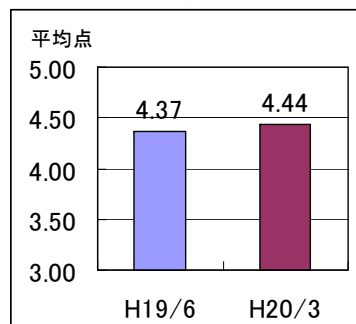
【メールマガジンの活用実績(H20/4~H21/2月)】

内訳	件数
「集団討議」での活用件数	146
「職場ミーティング」等での活用件数	310
計	456

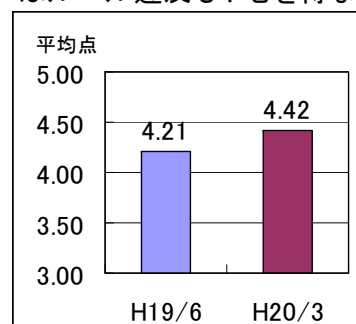
## (4) コンプライアンス意識に関するアンケート調査 (H20/3~4月) の結果 <第7回委員会報告>

- ▷ 調査対象： 全従業員 (4,940名)
- ▷ 調査期間： H20/3~4月
- ▷ 有効回答数： 4,622 (93.6%)
- ▷ 調査機関： (財)電力中央研究所

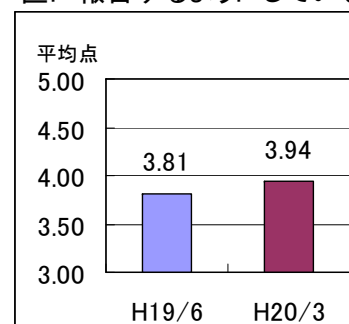
Q 社会の一員として恥ずかしいことはできない



Q 会社のためなら場合によってはルール違反もやむを得ない



Q 仕事で小さなミスをした場合も正直に報告するようにしている



\*各設問、平均点が高い方がコンプライアンス上望ましい

- ・社員に **コンプライアンス意識** は定着しつつある。
- ・更なる意識の向上を図るため、**今後も「コンプライアンス研修」等の対策を継続**する。
- ・職場ごとの調査結果をコンプライアンスリーダーに **フィードバック**し、各職場で「**集団討議**」等に活用。



## 2. 安全文化の構築 (1/4)

### (1) 経営トップからの「安全最優先」の強力な意志表明 <第8回・第9回委員会報告>

#### ○「安全最優先」の社内への周知・徹底状況 (H20/4~H21/2月)

##### ・社内報等による、「安全最優先」の意志の従業員への継続的な周知徹底

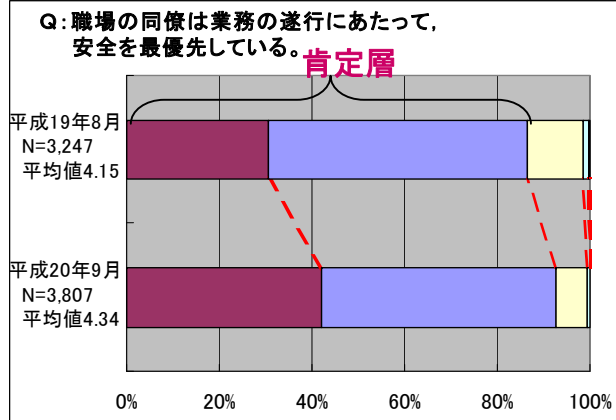
- ▷ 社内報 (原子力本部長メッセージ、コンプライアンス研修の紹介) : 計10回
- ▷ TV社内報 (社長放送、再発防止対策の取組み紹介) : 計15回
- ▷ ポータルサイト (社長メッセージ) : 計13回
- ▷ 「安全宣言ポスター」の掲示、「安全行動宣言カード」の携帯・活用 等

##### ・「隠さない風土と安全文化」の定着を経営の基本方針とした「H20年度経営計画」の、社内・グループ会社従業員への周知

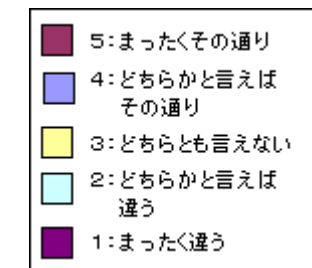
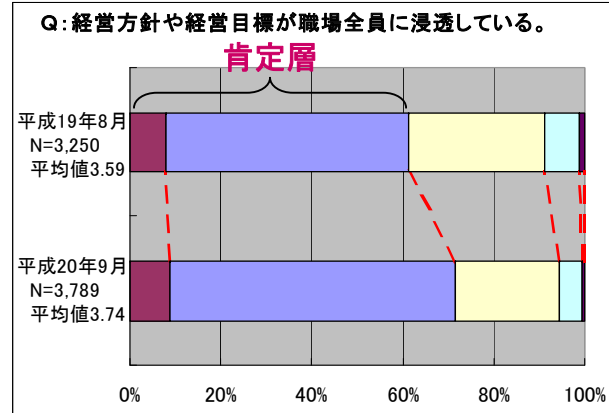
- ▷ 社内・グループ会社従業員への説明会 : 計44回

・アンケート結果から「業務遂行にあたっての安全最優先の実践」、「経営の基本方針の浸透」の社員への浸透が進んでいることを確認。

#### 【安全最優先の実践(社員アンケート)】



#### 【経営方針の浸透(社員アンケート)】



※平均値は上記凡例の数字の平均、最高点は5.00となる。

## 2. 安全文化の構築 (2/4)

### (2) 原子力本部、地域共生本部による地域と一体となった事業運営の推進 <第8回委員会報告>

・経営層・発電所・原子力部・地域社会部の各部署間での情報共有 (H20/4～H21/2月)

①原子力本部連絡会(原則週1回): **42回**

出席者:本部長、副本部長、原子力部長、地域社会部長、発電所長 他

②原子力本部実務者連絡会(原則週1回): **37回**

出席者:部長、副部長、課長クラス

③原子力部・発電所の業務ミーティングへの相互参加 : **毎週参加**

・タイムリーかつきめ細やかな双方向対話活動により、皆さまの「安全・安心」についての声を収集し、地元の皆さまの思いを本部連絡会等を通じて共有し、安全最優先意識を徹底。

### (3) 経営層と現場第一線社員とのフランクな対話の実施 <第8回委員会報告>

#### <対話実績> (H21/2月末)

	実施回数	参加者数	進捗率	(備考)H20年度 対話計画人数
合計	233回	2,547名	117%	2,170名(発電部門以外の社員を対象を拡大)

#### <対話参加者の評価> (アンケート結果)

アンケート結果	経営層の安全最優先や法令遵守の熱意が伝わったか?		フランク対話は有意だと思うか?	
	H19年度	H20年度2月末	H19年度	H20年度2月末
全体 (N=2,335)	90%	97%	87%	97%
原子力(再掲) (N=191)	84%	96%	91%	99%

・発電部門以外の社員にも対象を拡大し、対話効果のさらなる向上を図りながら計画的に実施。  
・対話参加者の評価は昨年度より向上している。

## (4) 失敗事例に学ぶ仕組みの推進 <第8回委員会報告>

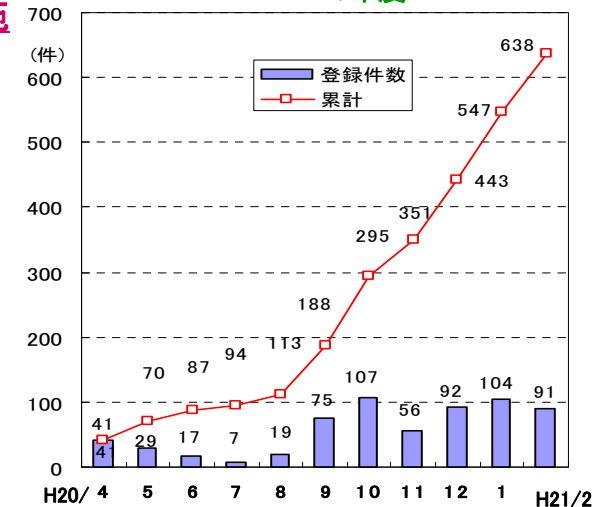
### ○ 失敗事例の知識化・共有化による事故・トラブルの防止の実施状況

#### <根本原因分析等を踏まえた改善策の策定と水平展開> (H21/2月末)

- ・「失敗事例活用連絡会」(全社的な情報共有と水平展開の場) : **5回開催**
- ・重大な事故・トラブルの背後要因を明らかにする原因分析 : **7件実施**

H20年度から営業部門がメンバーに参加(12→14部・所)

【ヒヤリハット情報登録件数の推移】  
H20年度



### ○ 失敗事例を言い出しやすい風土の醸成 (H21/2月末)

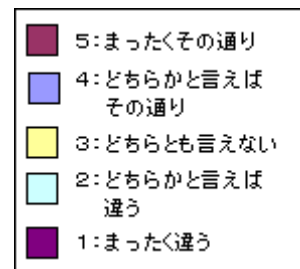
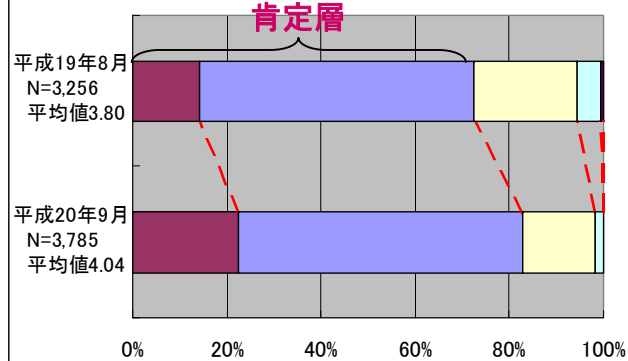
#### <業務改善提案を活用したヒヤリハット情報の共有化>

- ・社内報等を通じた好事例紹介、事業所訪問・研修の機会をとらえた情報登録への呼び掛け等により**登録を推進**

▷登録件数 : **638件 (月平均58件)** H19年度:平均26件/月

#### 【失敗情報の知識化・共有化(社員アンケート)】

Q: 職場の同僚は日頃から失敗情報を重要視し、トラブル、ヒューマンエラーの未然防止を図っている。

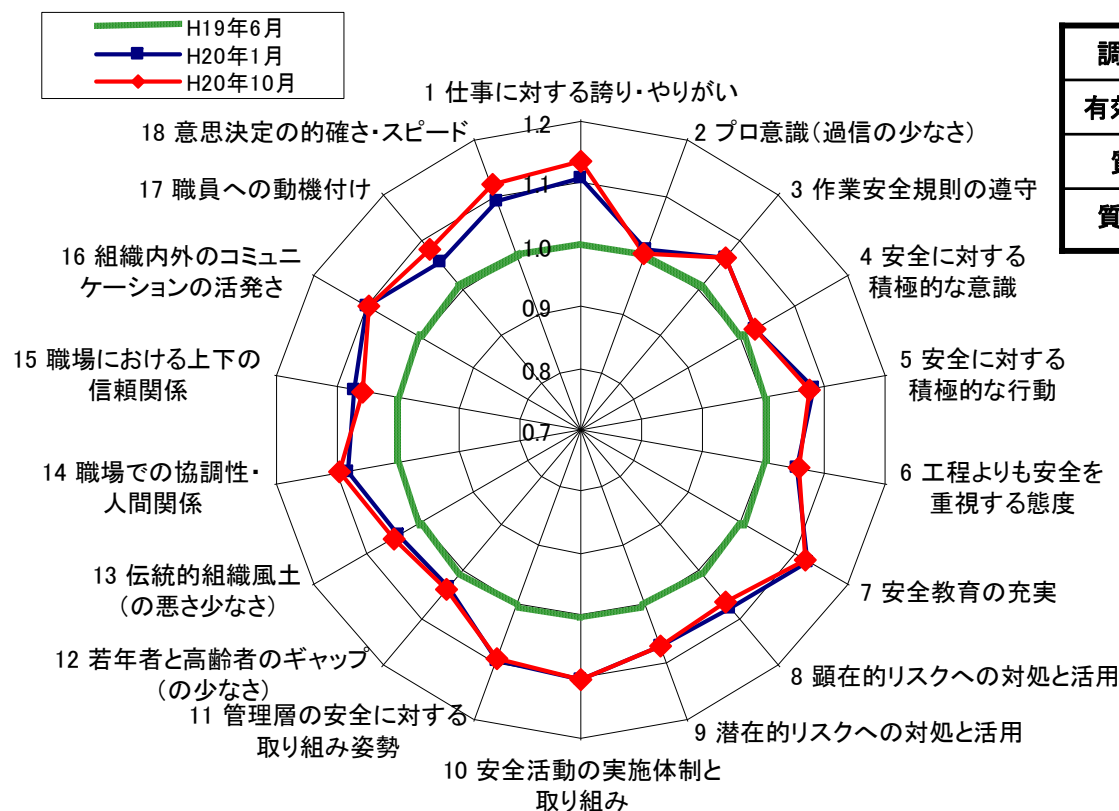


※平均値は上記凡例の数字の平均、最高点は5.00となる。

- ・各施策や教育を計画どおり着実に実施。
- ・アンケート結果により、**失敗情報、ヒヤリハットの知識化・共有化について、浸透・定着が進んでいることを確認。**

### (5) 原子力部門の安全文化意識レベル調査結果 (外部組織による評価の活用) NEW

#### 電力中央研究所による発電所員の安全文化意識レベル調査実施 (H20/10月)



調査時期	H19年6月	H20年1月	H20年10月
有効回答数	292	292	296
質問数	123	123	135
質問内容	安全意識・行動,安全管理,組織風土について		

・**前回(H20/1月)の調査**で、**臨界事故公表直後の調査(H19/6月)**と比較して**顕著に意識レベルが改善し、今回(H20/10月)の調査結果は、概ね前回と同様の水準**となっている。

・今後も定期的に調査を実施し、評価を行っていく。

### 3. 自律的・継続的な改革・改善活動の推進・支援(1/2)

#### (1) 安全文化やモラルに関する職場単位での集団討議の実施 <第8回委員会報告>

##### ○集団討議の実施状況(H21/2月末)

【コンプライアンスリーダー・サブリーダー数】

実施回数	参加者数	進捗率	備考
延べ 1,765回	延べ18,376名	119%	全社(373グループ), 3ヶ月に1回開催

リーダー	84名
サブリーダー	452名

##### ○集団討議に関するアンケート結果(H21/2月末) (全社: YES回答の比率)

意見を十分話せたか		自分の考えや行動に 良い刺激となったか		職場の風通しに 役立つか<新規>	
H19	H20	H19	H20	H19	H20
88%	92%	95%	98%	—	98%

・**集団討議は社員に定着し、職場の風通し改善にも役立つ等の効果も見られることから、今後も実施・支援を継続する。**

#### (2) グループ会社におけるコンプライアンス研修・集団討議の実施・支援 <第8回委員会報告>

##### ○コンプライアンス研修の実施状況

- ・目標: 子会社等(16社)の**社員全員の研修受講**
- ・対象者: 1,921名 **【H21/2月末実績】 1,921名受講**

##### ○集団討議の実施状況

- ・目標: 子会社等(16社)の討議 **年1～4回**  
**【H21/2月末実績】 全社で1～4回実施** (テーマ) 行動規範事例集 等
- ・グループ会社では責任者(各社1名)を中心に集団討議や研修を推進

\*責任者への説明会(3回)、責任者対象の推進研修(1回)、**討議事例、進行シナリオの提供**等を通じて支援

・アンケート結果により、**グループ会社でもコンプライアンス意識の浸透・定着が進んでいることが確認できたことから、引き続き、自律的活動に向けた取り組み・支援を実施する。**

## (3) 安全文化・品質管理に関する啓発活動 <第8回委員会報告>

### <活動実績>

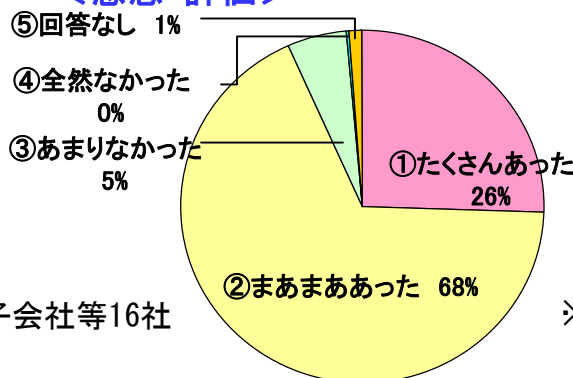
(H21/2月末現在)

	回数		人数
	実績	計画	実績
当社	53	53	2,791人
グループ	48	48	908人
計	101	101	3,699人

\*当社：全事業所対象      グループ：子会社等16社

### <感想・評価>

Q: 啓発内容について「参考になったことはありましたか」



- ①「たくさんあった」 952人 26%
- ②「まあまああった」 2,498人 68%
- ③「あまりなかった」 198人 5%
- ④「全然なかった」 7人 0%
- ⑤「回答なし」 44人 1%

※大半は安全文化の重要性は理解するが、説明より実行が大切。既に分かっている内容 等の意見

### <各職場からの意見・要望例>

#### (1) 日頃から問題と感じている内容

- 「要員不足ぎみの状態が続くと、必要な技術検討・OJTが不足し、技術力が低下する。」
- 「労働時間管理強化や慰安会廃止等で、職場でコミュニケーションする機会が失われがちになる。」
- 「北電からの工程変更の要請が急な場合、作業員の質・安全の確保が困難となる。」(グループ会社意見)

#### (2) 安全最優先の判断に迷うケース

- 「お客さまへ早期送電したいが雷等の天候リスクがある場合の対応」
- 「非常災害時における作業継続の判断(作業安全との兼ね合い)」



・安全文化意識の高まりに伴い、具体的な内容が多数出されてきたものと評価。

・今回の啓発活動により、「安全文化について再確認できた」との意見が多く、意識の共有化を図るという当初の目的に対して、一定の成果が得られた。

・各職場からの意見・要望を受け、意見・要望の集約結果の事業所へのフィードバック(13回実施)等の取り組みを継続的に進める。

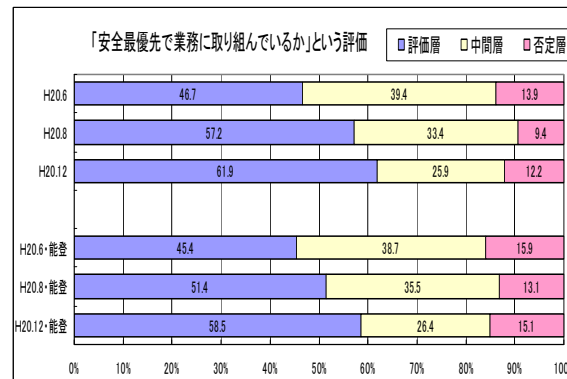
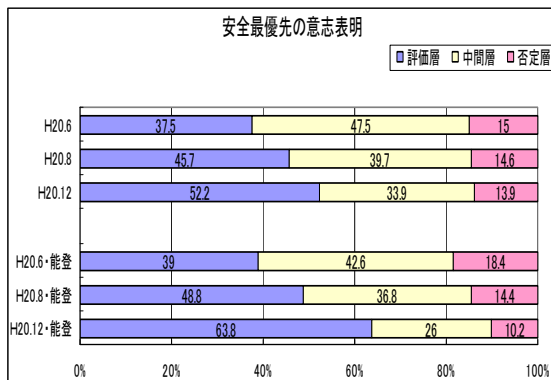


## 4. 社外とのコミュニケーション充実 (1/2)

### (1) 地域への「安全最優先」メッセージの継続的な発信 <第9回委員会報告>

- ▷ **新聞広告** : **計 42回** (7紙)
- ▷ **テレビ・ラジオCM** : **計 1,286本** [テレビ(9局) 828本・ラジオ(6局) 378本]
- ▷ **広報誌(えるふぷらざ)** : **計 2回** 再発防止対策の取り組み状況等を紹介<当社管内全世帯>
- ▷ **原子力広報誌(ハマナスねっと)** : **計 6回** 発電所情報を提供<志賀町全世帯>
- ▷ **チラシ等(志賀2号機運転再開)** : ・ダイレクトメール送付(H20/6月)<志賀町全世帯>  
・新聞折込チラシ配布(H20/6月)<隣接市町>
- ▷ **原子力の信頼度向上のための報道公開** : **計 8回** (原子力防災訓練、志賀1号機 耐震裕度向上工事 等)
- ▷ **信頼回復を目指した「電気の安定供給を守る取り組み」の報道公開** : **計 19回** (送電保守技能競技会 等)

#### 【インターネット調査(北陸三県・600サンプル/回、H20/6・8・12月実施)】



評価層：評価できる・どちらかといえば評価できる  
 中間層：どちらともいえない・全くわからない  
 否定層：評価できない・どちらかといえば評価できない

- ・報道機関への**現地取材の機会の提供**については、報道機関・一般の方から好意的に受け止められている。
- ・インターネット調査における**「安全最優先の意志表明の取り組み」、「安全最優先での業務への取り組み姿勢」**に対する**評価層は増加**。

## (2) 地域の皆さまとの双方向の対話活動の推進 <第9回委員会報告>

地元をはじめ北陸地域の議員、自治体、経済団体や婦人会などの各種団体に出向き、**双方向の対話活動を継続実施**

### ①北陸地域の有識者との対話活動(訪問)

・4月～2月 **延べ約4,700名**

### ②各種団体の皆さまとの対話活動(説明会・見学会)

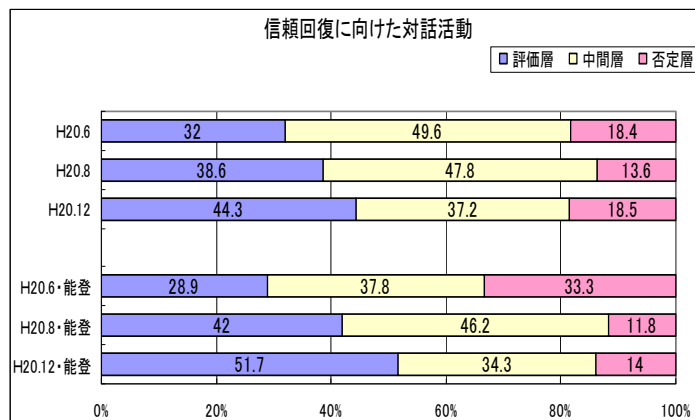
・4月～2月 **計 528回**

(発電所見学会の中での実績(再掲)265回)

	経済団体	婦人会	教育関係	自治体等	当社会合	合計
富山県	14	9	29	57	60	169
石川県	11	60	8	168	49	296
(地元※再掲)	(7)	(48)	(0)	(95)	(2)	(152)
福井県	0	17	1	17	28	63
合計	25	86	38	242	137	528

※志賀町および隣接市町

### 【インターネット調査(北陸三県・600サンプル/回、H20年6・8・12月実施)】



評価層：評価できる・どちらかといえば評価できる  
 中間層：どちらともいえない・全くわからない  
 否定層：評価できない・どちらかといえば評価できない

・地元での対話活動・理解活動にあたっては、**住民の目線に立った情報発信・対話活動**を実施。また、女性を含む専門チームを設置し、婦人層を中心に双方向対話活動を強化している。

・インターネット調査における「**信頼回復に向けた対話活動**」等に対する**評価層は増加**。

## 5. 請負者との協働体制の推進 (1/4)

## (1) 請負会社との連携強化による知識・技能の継承 &lt;第7回・第8回委員会報告&gt;

## ○実施状況 (H21/2月末)

(実施回数/計画数 等)

部 門	具体的内容	実施状況
原子力	請負会社の着工前事前検討会等に当社監理員が出席し安全品質上の指導実施	年間1回/人以上出席 (57/57人)
火 力	定検着工前打合せによる工事内容確認と品質・安全管理指導	定検着工前打合せ時の指導実施
	当社と請負者で協働安全パトロールを実施	各発電所で計画に従い実施中
水力(土木)	工事着工前打合せ時、当社役職者による安全品質管理の指導実施	期間中対象全数実施 (673/673件)
電力流通	工事着工前打合せ時、当社役職者による安全品質管理の指導実施	期間中対象全数実施 (1,551/1,404件)
配 電	施工者訪問点検で品質管理に係る取り組みを把握・指導	3回訪問点検完了 [各回85事業所](3/3回)
情報通信	メーカー工場への訪問による品質管理状況の確認・指導	工場訪問による確認・指導完了 (2/2社)

## (2) 当社と請負者との責任区分を明確にした工事の発注・契約 &lt;第7回・第8回委員会報告&gt;

## ○実施状況 (H21/2月末)

(実施回数/計画数 等)

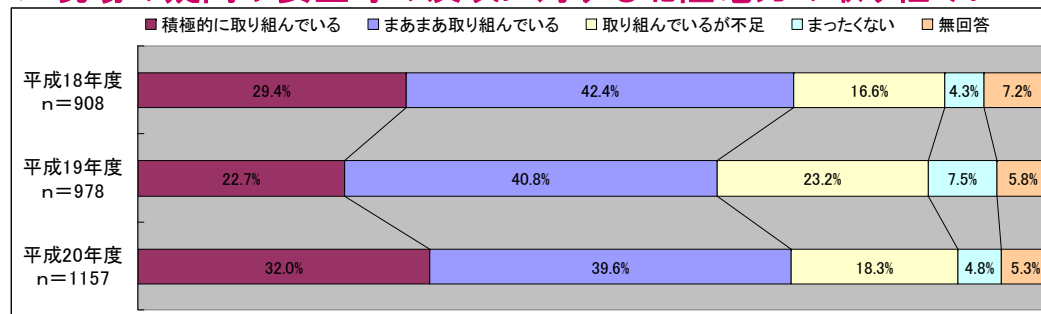
部 門	具体的内容	実施状況
原子力	現場説明会で請負者が実施すべき検査項目・内容等を具体的に指示	2号機第2回定検現場説明会実施(2社)
	竣工検査の全数を当社自らが実施	全ての工事で当社の竣工検査を実施
火 力	請負者との責任区分を明確にし、作業工程ごとの検査を確実に実施	改善された検査区分表運用中
水力(土木)	監理員による竣工検査や使用前社内検査の確実な実施	期間中対象全数実施(138/138件)
電力流通	使用前社内検査の確実な実施	期間中対象全数実施(33/33件)
配 電	重要箇所における竣工検査方法の検討と確実な実施	社内規則改定完了、運用中
情報通信	標準仕様書試験項目表の改定による竣工検査の確実な実施	改定完了(6/6装置)

## 5. 請負者との協働体制の推進 (3/4)

### (3) 請負者との一体感醸成に関する効果の確認結果 <第8回委員会報告> **NEW**

<原子力部門の「当社と請負者との一体感醸成」に関するアンケート結果> (H20/5月)

**Q. 現場の疑問や要望等の反映に対する北陸電力の取り組みについてどう思いますか。**(協力会社等)



・「積極的に取り組んでいる」、「まあまあ取り組んでいる」という肯定層が回復しており、**当社の取り組みを約7割が評価している。**

### <各部門の請負者へのヒアリング実施状況> **NEW**

【火力部門】定期点検終了時、安全・品質上の問題点等について請負者を交え意見交換会を実施[4回]

【土木部門】新技術・新工法採用工事において請負者と当社が一体となった施工検討会を実施[3回]

【流通部門】工事における知識・技能上の課題を請負者を交え協議する検討会を実施[7回]

【配電部門】安全・品質に関する取組状況を確認する定期的な施工者訪問点検を実施[85箇所×3回]



【火力定期点検時の会議】



【土木工事施工検討会】



【送電工事の検討会】



【配電請負会社への施工者訪問点検】

## 5. 請負者との協働体制の推進 (4/4)

### ○請負者からの主な意見

#### ○請負会社との一体感の醸成に関する意見

- ・直接対話する機会が増加したことで、**意思疎通が図りやすくなった**。【各部門】
- ・業界と電力とでイメージアップCMを**共同作成し、一体感が得られた**。【流通部門】
- ・定期点検の都度実施することにより、相互に問題点を確認して次の工事に反映するなど**意義のある話合いの場となっている**。【火力部門】

#### ○請負者との協働体制の課題に関する意見

- ・施工者訪問点検(85社)では、不備事項の指摘のみだが評価もしてほしい。【配電部門】  
(12月から優良事例を評価するよう改善)
- ・定期点検工事の実施時期が変更になり、作業工程調整に苦労した。【火力部門】(継続努力)

#### ○安全・品質の維持・向上に関する意見

- ・**品質に関する取り組みについて強化するきっかけとなり有益であった**。【配電部門】
- ・経験者による工事に関する留意点について意見を工事着手前に聞き、**施工計画策定の参考になった**。【土木部門】
- ・作業環境、設備等の改善提言による情報の共有化と施工方法の改善により、**作業安全の確保・向上が図れた**。【火力部門】

- ・請負者と一体となった活動により、**意思疎通の改善、安全の向上が図られていることを確認**。
- ・今後も**パートナーシップ・心のふれあいに留意しながら、安全・品質の維持・向上に資する継続的な活動を実施**していく。



## 6. 再発防止対策の定期的な評価・改善

### (1) 原子力安全信頼回復推進委員会 NEW

- ・委員長： 社長
- ・実施回数： **39回**（H21/2月末）
- ・再発防止対策の実施状況、効果、定着度を評価し、対策を継続的に改善するために、社内関係機関・部門の長に必要な指示を実施
- ・再発防止対策検証委員会の意見を踏まえ、具体的な対応策を検討・実施

#### [委員会の指示事例]

- ・コンプライアンスリーダーのヒアリングを通じたコンプライアンスの実態把握
- ・フランクな対話の対象層等の見直し(H21年度～)
- ・安全最優先に関するアンケートを各部門・現場でのアクションにつなげるためのフィードバック実施
- ・工事の前後においてトラブル防止のための安全・品質管理を徹底
- ・情報管理の徹底についての再周知

### (2) 再発防止対策検証委員会 NEW

- ・委員長： 児嶋眞平 京都大学名誉教授
- ・実施回数： **3回**（第9回<H21/3月>含む）
- ・社外の中立的な立場から再発防止対策の実効性の検証・評価を実施

#### [委員会の意見反映例]

- ・グループ会社社員を対象とするコンプライアンス意識調査実施(H21/3)
- ・部店長クラスを対象とするコンプライアンス研修実施(H21/3)
- ・請負者との一体感醸成の状況を把握するためのヒアリング調査実施
- ・チェルノブイリ等の原子炉の構造、事故の技術的な解説の社員への周知

## 今後の取り組み

- ・今後も、「隠さない風土と安全文化」の定着に向けた企業風土改革のための取り組みとして、活動を継続してまいります。
- ・対策の実施にあたっては、社員の意識調査結果や現場の実態・意見を確認しながら、各職場の自律的な活動として定着し、日常業務に取り込まれるよう努めてまいります。加えて、対策のマンネリ化防止、社員のモチベーションの維持、各職場での創意・工夫の発揮に留意いたします。
- ・各施策の実施状況や効果を定期的に確認・評価しながら、PDCAサイクルを確実に回し、その内容について、引き続き再発防止対策検証委員会で検証・評価していただきます。
- ・当社の取り組み内容および再発防止対策検証委員会における検証結果につきましては、定期的・継続的に公表するとともに、地域の皆さまに対し積極的な説明を行ってまいります。

### Ⅲ 第7回、第8回再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について

## 第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について(1/6)

	主な意見	当社の対応
① 隠さない 風土作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力トラブル時には、安全性に問題がない場合でも、地元説明を確実に実施してほしい。 (第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志賀原子力発電所で発生したトラブル等について、地域の目線に立った情報発信に心がけ、情報の透明性向上や理解促進のための活動を行います。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等が画一的にならないよう留意が必要。画一的な進め方は組織の柔軟性を失わせる。 (第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス研修等に関しては、現在、対象者や階層に応じたカリキュラムで実施しており、グループ討議等を通じ受講者が自分自身で考える内容が中心です。</li> <li>・受講者の評価や習熟度を踏まえてカリキュラムを適宜見直す等、今後も、このような取り組みを充実させます。</li> <li>・集団討議に関しては、現在、テーマ選定や討議の進め方について各職場で柔軟に対応しています。</li> <li>・今後も、コンプライアンスリーダーとの意見交換会の充実等により、各職場の状況およびニーズを的確に把握し、コンプライアンスリーダーへのサポートを強化する等、各リーダーを中心とした、画一的ではない自律的な活動として定着するよう支援を行います。</li> </ul>

## 第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について(2/6)

	主な意見	当社の対応
① 隠 さ な い 風 土 作 り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果に着実な改善傾向が見られることは評価するが、行動規範やコンプライアンス研修等を繰り返し、社員にコンプライアンスを浸透させる努力を続けることが必要。 (第7回)</li> <li>・関係会社に水平展開している施策の効果の確認を行う必要がある。 (第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンプライアンス研修」や「集団討議」等の施策は法令遵守に役立っているとの従業員からの評価もあり、内容の充実や改善を行いながら、更なる意識の向上を目指して継続実施してまいります。</li> <li>・関係会社のコンプライアンス意識に関しては、「研修受講後のアンケート調査」により研修の理解度を確認しました。加えて、「コンプライアンス意識調査」により効果の確認を行います。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスの徹底は必要だが、一方で「潤いのある職場」、「社員の心身両面への配慮」も大切にすべき。 (第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場懇談会やリフレッシュ行事等を通じ、職場コミュニケーションの活性化を図る他、職場の長は積極的傾聴、職場のモチベーション向上に留意する等、「風通しの良い潤いのある職場づくり」に努めています。</li> <li>・「フレックスタイム勤務制度」や「ノー残業デー」等によるゆとりある職場の実現、長時間労働の防止に向けた「メンタルヘルス教育」等の取り組みにより、今後も「社員の心身両面への配慮」に留意します。</li> </ul>

第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で  
いただいたご意見について(3/6)

	主な意見	当社の対応
② 安全文化の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員全員が「チェルノブイリやスリーマイル島のような重大な原子力事故は日本では起こらない」ことを十分理解し、社会に説明できるようになっていなければならない。(第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェルノブイリ、スリーマイル島を含め、社会への影響が甚大な事故については、原子炉の構造や自己制御性の違い等の技術的な解説や事故の原因・教訓を取りまとめた「語り継ぐべき失敗事例集」に掲載し、各部門の職能教育等で活用しています。</li> <li>・今後も繰り返し教育を行うとともに、対話活動対応者を対象に情報提供・啓発活動を行いました。さらに、「品質管理ポータル」を通じ広く社員にも周知しました。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力部門の社員の精神的ストレス等を考慮して、必要なサポートやモチベーション向上に努めることが大事。(第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社宅や寮の整備等の生活環境改善に向けた取り組みや、「メンタルヘルス教育」、「産業医による健康アドバイス」等の取り組みにより、今後も必要なサポートを実施します。</li> <li>・また、原子力部門幹部や役職者との意見交換等を通じて社員のモチベーション向上やコミュニケーション活性化に努めています。</li> </ul>
③ コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世間の企業を見る目が厳しくなっている。そのような状況で原子力に対する認識を深めてもらうためには、北陸電力の対応状況や努力を世の中にどう伝えていくのが重要。(第8回)</li> <li>・双方向の対話活動のマスコミへの公開等、あらゆる機会を通じて広報していくことが大切。(第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、わかりやすい双方向の対話活動をはじめ、「電気の安定供給を守る取り組み」の報道公開等、マスメディアや当社媒体の活用により、当社の取り組みや姿勢を地域の皆さまにお伝えするよう努めてきました。</li> <li>・今後も、皆さまのご理解を賜るよう、積極的な広報について一層努力します。</li> <li>・地元で開催する当社主体の活動では、今後とも参加者の意向を確認した上で公開を検討します。</li> </ul>



## 第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について(4/6)

	主な意見	当社の対応
<b>④</b> <b>自</b> <b>律</b> <b>的</b> <b>・</b> <b>継</b> <b>続</b> <b>的</b> <b>な</b> <b>改</b> <b>革</b> <b>・</b> <b>改</b> <b>善</b> <b>活</b> <b>動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の作業員や技術者が、自分で考え、動けるように、会社が支援するのはよいが、活動が形骸化につながらないよう、現場の声を拾うという意識を常に持ち続けること。(第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンプライアンスリーダーとの意見交換」や「安全文化に関する意見交換」を通じ、現場の声を直接確認するほか、「職場元気度診断」等のアンケート調査の自由意見を分析しました。分析結果を施策に反映させることで、活動が形骸化しないよう努めます。</li> <li>・主な現場の意見やその反映状況については、今後の再発防止対策検証委員会で報告します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場を統括するのは部・課長の役割。トップの役割も重要ではあるが、結節点としての部・課長の役割を認識することが大切。(第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部・課長の役割の再確認、管理能力向上を目的とした「OJT推進研修」、「コーチング研修」等を確実に実施しています。</li> <li>・「安全文化に関する啓発活動」の中で、「トップの意向の組織への浸透」、「積極的傾聴」等の役割について十分周知しました。</li> </ul>

## 第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について(5/6)

	主な意見	当社の対応
⑤ 請負者との協働体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係が大切といいながら、発注者と請負者では、どうしても力関係に違いがある。グループ会社や請負者と安全文化を共有し、浸透する努力が大切であり、その際には、パートナーシップ、心と心のふれあいといった面に留意する必要がある。 (第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事事前検討会、工事乗込時教育、作業開始時ミーティング等の機会に当社監理員が積極的に参加し、安全意識の共有化を図っています。</li> <li>・また、「提言箱制度」(原子力)や「意見交換会」(各部門)等、請負者側が言い出しやすい仕組みや、請負者と合同による工事工法の検討や作業標準の見直し(各部門)等により、請負者との一体感を醸成する工夫をしています。</li> <li>・心のふれあいという面では、「一声あいさつ運動」、「合同パトロール」(原子力)の他、請負者と一体での行事实施等に取り組んでいます。</li> <li>・これらの活動を継続的に推進します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・請負者との協働体制推進の取り組みについて、効果の確認を行う必要がある。 (第7回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の工事監理や現場パトロール、また定期的な請負者への監査やヒアリング等の活動を通じて、請負者の品質管理状況等についての効果を確認しました。</li> <li>特に、原子力部門では、発電所で日々取り組んでいる諸活動に対する意識調査として「当社と請負者との一体感醸成」に関するアンケートを定期的に行っています。</li> </ul>

## 第7回<H20/8月>、第8回<H20/12月>再発防止対策検証委員会で いただいたご意見について(6/6)

	主な意見	当社の対応
⑥ そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のマネリ化をどう防ぐかが今後の課題。 (第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各対策の効果の確認・評価や社員との意見交換やアンケート調査を通じて、施策の改善や見直しを継続的に行うとともに、職場の創意工夫を促す等により、各職場での自律的な活動となるよう努めます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から理解不足の人も見られるが、理解度にバラツキがあるのは自然。 (第8回)</li> <li>・社員へのアンケート結果が改善していることは良いことだが、数値ではなくプロセスが大切なのであり、たとえ数値が伸びなくても気にしすぎる必要はない。 (第8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査は、対策の効果の確認を行い、継続的な改善に結び付けることを目的としており、今後も定期的を実施し、当社の取り組みが風化することがないように、適切に評価していきます。</li> </ul>

## IV 再発防止対策の進捗率一覧

## 再発防止対策の進捗率一覧(1/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
<b>1 迅速かつ確実な対外通報・報告の徹底</b>						
①	全ての異常事象を対象に、第一報を発電所駐在の保安検査官、社内関係箇所へ通報	・通報件数：1,383件			○	
②	保安規定対象トラブルの発電所長から社長・本部長への報告	・社長への報告：7回 ・トラブル対応訓練：2回(H20/8,11)			○	
<b>2 「トラブル対策会議」における運営ルールの徹底</b>						
①	運営ルールに基づいた「トラブル対策会議」の確実な実施	・会議開催実績：24回 ・連絡区分判断事例集：作成(H20/10)、改善点抽出(H20/11)			○	会議実施
					○	会議記録・保存(議事録等)
			100%	100%		経過工程/作業工程
<b>3 発電所情報の国及び経営層・原子力本部への確実な伝送</b>						
①	発電所情報の国及び経営層・原子力本部への確実な伝送	・伝送実施中 ・システム不具合箇所工事完了(H20/6) ・伝送項目に関するアンケートの実施(H20/7,8) ・未伝送無の確認、対応状況の確認(H20/9) ・伝送不能発生(H20/11)、対策実施(H20/11) ・WEB端末動作不良発生、同日復旧(H20/2)			○	
②	警報等発信記録(アラームタイパー)情報の保存	・保存実施中 ・保存状況の確認(H20/6、9、12)			○	
<b>4 原子炉主任技術者による保安の監督の徹底</b>						
①	原子炉主任技術者による保安の監督の徹底	・保安規定対象トラブルの社長への報告：7回 ・保安監督状況の社長への半期報告：2回 ・会議出席：保安委員会：6回、保安運営委員会：63回 ・トラブル対策会議：24回、プラント起動時評価会議：8回			○	
<b>5 企業倫理情報窓口(ホイッスル北電)の継続</b>						
①	企業倫理情報窓口(ホイッスル北電)の継続	・階層別教育(コンプライアンス教育)を利用した制度説明：14回			—	

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「—」で標記

## 再発防止対策の進捗率一覧(2/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
<b>6 コンプライアンス教育の実施</b>						
①	従業員へのコンプライアンス研修の実施	・研修開催：101回、受講者4,193名/対象者4,193名(H20/4~12)	100%	100%		受講者数/対象者数
②	階層別教育におけるコンプライアンス教育の実施	・新入社員研修：受講者114名/対象者114名(H20/4) ・新入社員研修フォロー研修：受講者80名/対象者80名(H20/11、12) ・ステップアップ研修：受講者40名/対象者40名(H20/8、10) ・中堅社員研修：受講者156名/対象者156名(H20/7、8、9、11) ・新任管理監督者研修：受講者119名/対象者119名(H20/8) ・新任特別管理職研修：受講者46名/対象者46名(H20/8) ・特別管理職フォロー研修：受講者19名/対象者19名(H20/9) 〈受講者計574名/対象者計574名〉	100%	100%		受講者数/対象者数
③	習熟度検査の実施	・H20/12月~H21/1月実施、9,203名/対象者9,203名 ・目標(80点)未達者を対象に再検査実施(H21/2)、目標未達者なし	100%	100%		検査実施者数/対象者数
④	グループ会社従業員を対象としたコンプライアンス研修実施の支援	・当社研修への参加、グループ内講師による研修、外部講師による研修等 〈受講者1,921名/対象者1,921名〉	100%	100%		受講者数/対象者数
<b>7 経営幹部及び管理職全員に対するコンプライアンス教育の実施</b>						
①	経営幹部へのコンプライアンス研修の実施	・第1回：講師：樋口晴彦氏『組織行動の「まずい!!」学』 特管職以上：524名(記録映像視聴64名含む)、対象524名(H20/5) ・第2回：講師：吉田道雄氏『組織の安全醸成と集団理解』 特管職以上：571名(記録映像視聴40名含む)、対象571名(H20/9) ・第3回：講師：岡本浩一氏(東洋英和女学院大学教授) 特管職以上：564名(課題提出35名含む)、対象567名(H21/1) 〈延べ受講者1,659名/延べ対象者1,662〉 ※未受講者はH20/3月に課題提出予定	100%	100%		受講者数/対象者数
②	特別管理職へのコンプライアンス研修の実施	・研修開催：4回、受講者512名/対象512名(H20/8、9)	100%	100%		受講者数/対象者数
<b>8 安全文化やモラルに関する職場単位での集団討議の実施</b>						
①	集団討議の実施	・集団討議実施回数：累計1,765回/計画1,488回 ※対象：373グループ	119%	122%		延実施回数/延計画回数
②	集団討議の支援	・コンプライアンスリーダーとの意見交換会：14回/計画15回 ・コンプライアンスリーダー・新任サブリーダー研修：6回/計画6回 ・「職場討議管理データベース」運開(H20/4) ・「行動規範」事例配付：8例(H20/9、10、11、12)	93%	100%		意見交換会実施回数/計画回数
		・グループ会社対象の集団討議推進研修：20社27名(H20/5) ・コンプライアンスメールマガジンバックナンバーのグループ会社配付(H20/9、11、H21/1) ・「安全文化に関する討議事例」(品質管理部作成)を配付 (当社H20/7、グループ会社H20/10)	100%	100%		リーダー研修実施回数/計画回数

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「-」で標記



## 再発防止対策の進捗率一覧(3/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
9 コンプライアンスに関する誓約書の署名の実施						
①	全従業員がコンプライアンスに関する誓約書に署名	・誓約書受領完了: 5,001名 (H20/4)	100%	100%		署名受領数/対象者数
②	グループ会社従業員によるコンプライアンスに関する誓約書への署名	・誓約書受領完了: 4,054名 <20社全社>(H20/5)	100%	100%		署名受領完了社数/対象社数
10 コンプライアンスメールマガジンの発信						
①	コンプライアンスに関する社長メッセージの発信	・「永原だより」発行: 11回/計画12回	92%	100%		発信回数/計画回数
②	コンプライアンスに関する最新情報の発信	・メルマガ発行: 11回/計画12回	92%	100%		発信回数/計画回数
11 全社行動規範と原子力発電所業務規範の充実						
①	全社行動規範・事例集の充実	・事例配付: 8事例/計画8事例 (H20/9、10、11、12) ※グループ会社含む	100%	100%		配付事例/計画事例
②	「志賀原子力発電所 業務規範」の充実	・業務規範への事例追加: 5件, 内容追記・修正: 5件 (H20/10) ※職場懇談会等での活用継続中			○	
12 部門間の人事交流の活発化						
①	定期異動時に、事務部門と技術部門の交流, 技術部門どうしの交流を拡大	・志賀原への部門間人事交流(12名)継続中 ・電力流通, 配電の部門間交流: 1組追加<累計2組> (H20/7) ・人事交流対象者、上司、主管部を対象にヒアリング実施(H21/1、2)		—		
13 管理職の管理能力向上教育の充実						
①	OJTやり方研修の拡大実施	・OJTやり方研修: 受講者674名/対象者674名 ・OJT推進研修: 受講者317名/対象者317名 <合計: 受講者計991名/対象者991名>	100%	100%		受講者数/対象者数
②	コーチング研修の実施	・コーチング研修: 受講者138名/対象者162名 ・コーチングスキル強化研修: 受講者49名/対象者49名 <合計: 受講者計187名/対象者210名> ※未受講者はH20/3に受講予定	89%	100%		受講者数/対象者数
③	リスク管理研修の実施	・リスク管理研修: 累計184名/対象者184名	100%	100%		受講者数/対象者数

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「—」で標記

## 再発防止対策の進捗率一覧(4/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
<b>14 経営トップからの「安全最優先」の強力な意志表明</b>						
①	経営方針・経営計画での「安全最優先」の明文化・周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>「H20総合経営計画」の説明会：44回 &lt;グループ会社含む&gt;</li> <li>H21計画策定指針(総合経営計画の骨子)への反映：H20/11</li> <li>※H21総合経営計画への反映はH21/3予定</li> </ul>	100%	100%		従業員への説明状況
			50%	100%		総合経営計画への反映状況
②	社内報等による「安全最優先」の意志の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内報：10回</li> <li>TV社内報：15回</li> <li>ポータルサイト(社長メッセージ掲載)：13回</li> <li>安全宣言ポスター(職場内掲示)：制作・配付完了(H20/7)</li> <li>安全行動宣言カード(社員携帯)：制作・配付完了(H20/4)</li> </ul>		—		
③	安全文化に関する啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所説明会：53回/計画53回</li> <li>グループ会社での説明会：48回/計画48回</li> <li>フィードバック 13回</li> </ul>		—		
④	安全を最優先した工程の設定・運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリティカル工程、マスター工程の修正：7回</li> <li>2号定検工程検討会の開催：4回(H20/7、9、12、H21/1)</li> <li>2号第1回定検の改善意見集約：H20/7、調整・反映(H20/7～H21/4)</li> </ul>		—		
⑤	地域への「安全最優先」のメッセージ発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞広告：42回</li> <li>ホームページ：安全シリーズ追加(H20/4,5)</li> <li>広報誌「えるふぶらざ」：2回(H20/6,9)</li> <li>テレビCM：889本、ラジオCM：397本</li> <li>原子力広報誌「ハマナスねっと」へのメッセージ掲載：6回(H20/4、6、8、10、12、H21/2)</li> <li>志賀町全世帯へDM：1回(H20/6)、隣接市町 新聞折込チラシ：1回(H20/6)</li> <li>発電所取材：6回</li> <li>北陸電力に対する意識調査(H20/7)、速報(H20/9)、取り纏め(H21/11)</li> <li>Web調査(H20/6、8、12)</li> </ul>		—		
<b>15 原子力本部、地域共生本部による地域と一体となった事業運営の推進</b>						
①	原子力本部内の有機的な連携に基づく情報共有、意思決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力本部連絡会：42回</li> <li>原子力本部実務者連絡会：37回</li> <li>業務ミーティング相互参加(原子力部、志賀原)H20/4～H21/2毎週実施</li> </ul>	92%	100%		連絡会の実施状況確認(毎月)
<b>15-2 地域の皆さまとの双方向の対話活動の推進</b>						
①	地元の皆さまとの対話活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動を行う専門チーム設置：H20/7</li> <li>「志賀町ケーブルテレビ」を活用した発電所情報提供：放送開始(H20/10)</li> </ul>		—		
②	地域の皆さまとの対話活動(訪問活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地域の有識者訪問：7回/計画4回、延べ約4,700名</li> <li>各種団体訪問説明：528回/計画500回以上</li> <li>※地元での訪問説明(再掲)：152回</li> </ul>	175%	200%		有識者訪問回数/計画回数
			106%	109%		説明回数/計画回数

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「—」で標記

## 再発防止対策の進捗率一覧(5/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
16 経営層と現場第一線社員とのフランクな対話の実施						
①	経営層と現場第一線社員との膝詰めの意見交換の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力部門: 222名/200名、26回</li> <li>・水力部門: 262名/250名、20回</li> <li>・火力部門: 309名/300名、31回</li> <li>・送変電部門: 372名/300名、27回</li> <li>・情報通信部門: 230名/190名、15回</li> <li>・配電部門: 480名/440名、38回</li> <li>・営業部門: 522名/340名、62回</li> <li>・中堅社員研修: 150名/150名、14回</li> <li>&lt;合計: 2,547名/2,170名、233回&gt;</li> </ul>	117%	118%		参加者数/参加予定者数
17 発電所内の組織強化・増員						
①	志賀原子力発電所の組織強化・増員の検証・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織強化・増員(24名)を継続中</li> <li>・新入社員17名配置(H20/7)</li> <li>・関係者にヒアリング実施(H21/1、2)</li> </ul>		—		
18 事故・トラブル時の応援の着実な実施						
①	事故・トラブル時の応援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応援人材リスト更新(H20/7)</li> <li>・応援受け入れ(累計): 火力7名、電力流通6名、北発工19名</li> <li>・アンケート実施(H20/6～9、H21/2)</li> </ul>	92%	100%		実施状況を確認(毎月)
19 品質管理の充実						
①	再発防止対策の自律的活動の推進、フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所考査の実施: 累計52箇所</li> <li>・原子力監査の実施: 累計21回</li> </ul>	92%	100%		活動月数/全工程月数(12)
②	保安活動に関する評価・改善の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保安規程を頂点とする社内規則体系図制定(H20/5)</li> <li>・保安規程の定期的な点検(H20/6)</li> <li>・保安文書体系整備WGの開催: 4回</li> <li>・保安規程の原子力分離及び関係社内規則改正(H21/1)</li> <li>・要則の条文の体系的な整備(H21/2)</li> </ul>				
③	品質管理取り組み意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所説明会: 53回/計画53回</li> <li>・グループ会社での説明会: 48回/計画48回</li> <li>※No.14③「安全文化に関する啓発活動」事業所訪問に同じ</li> <li>・品質管理ポータル運用開始(H20/9)、同情報更新 累計80回</li> <li>・職場元気度診断の実施(H20/9～10)、分析結果報告(H20/12)</li> <li>・安全文化等に関する啓発活動のフィードバック 累計13回</li> </ul>				

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「—」で標記

## 再発防止対策の進捗率一覧(6/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
<b>20 失敗事例に学ぶ仕組みの推進</b>						
①	失敗事例の知識化・共有化による事故・トラブルの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>失敗事例活用連絡会開催: 5回/計画4回</li> <li>背後要因分析実施: 7件</li> <li>軽微な事故, トラブル分析: 2回/計画2回</li> <li>職能教育での活用: 56回/計画45回</li> <li>失敗活用リーダーとの対話集会: 累計150名</li> <li>背後要因教育: 29回/計画28回、累計776人</li> </ul>	125%	125%		連絡会開催回数/計画回数
			100%	100%		トラブル分析回数/計画回数
			124%	133%		職能教育活用回数/計画回数
			104%	104%		背後要因教育実施回数/計画回数
②	失敗事例を言い出しやすい風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>先輩が語る私の失敗事例紹介: 11回/計画12回</li> <li>ヒヤリハット事例登録: 638件</li> </ul>	92%	100%		失敗事例紹介回数/計画回数
③	電力各社とのトラブル情報の共有, 水平展開	<原子力> ・当社原子力トラブル情報のNUCIAへの登録: 8件 ・他社トラブルの水平展開検討: 情報入手70件、水平展開方策検討70件、検討完了57件 <水力・火力> ・全国大会議参加: 6回/計画6回 ・電事連での情報共有: 他社 27件、当社 2件(片貝第一、上滝P/S操作油流出)			○	NUCIAへの登録・水平展開
			100%	100%		全国大会議参加回数/計画回数
<b>21 外部組織による評価の活用</b>						
①	電力中央研究所による経営層及び原子力部門の安全文化意識レベルの調査・評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>H19年度電中研, 原技協アンケート調査結果の報告会: H20/5</li> <li>原子力部, 志賀原を対象としたアンケート調査結果の周知(H20/6~8)</li> <li>アンケート結果に関する発電所幹部との対話(6月から順次実施) 12課/12課</li> <li>H20年度電中研アンケート調査実施(H20/10)、仮報告(H20/12)、報告会(H21/1)</li> </ul>			—	
<b>22 マイプラント意識向上のための施策の推進</b>						
①	現場見える化活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力: 現場パネル, 職場内問題の見える化: 52件</li> <li>火力: 現場見える化活動, 5S活動: 58件</li> <li>電流・土木: 現場見える化活動: 492件</li> </ul>	100%	100%		原子力: 抽出数, 実施月数勘案
			92%	100%		火力: 活動月数/12ヶ月
			82%	100%		電流・土木: 実施件数
②	TPM活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力: 外部コンサル指導会: 7回/計画7回</li> <li>電流・土木: 外部コンサル指導会: 14回/計画17回</li> </ul>	100%	100%		原子力(①と同一管理)
			82%	100%		電流・土木: 実施回数/計画回数

\*進捗率での数値管理がそぐわない施策については、「—」で標記

## 再発防止対策の進捗率一覧(7/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)
			2月末	3月末推定		
<b>23 技術教育と部門横断的な法令教育の推進</b>						
①	グループ会社を含む保安教育(技術教育, 法令教育)の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品管: 96回/計画100回(補完教育)</li> <li>・原子力: 累計51名</li> <li>・火力: 4回/計画4回</li> <li>・電流: 75回/計画80回</li> <li>・土木: 9回/計画12回</li> <li>・配電: 24回/計画25回</li> <li>・情通: 41名/計画41名</li> </ul>	96%	100%		品管:実施回数/計画回数
					○	原子力
			100%	100%		火力:実施回数/計画回数
			94%	100%		電流:実施回数/計画回数
			75%	100%		土木:実施回数/計画回数
			96%	100%		配電:実施回数/計画回数
			100%	100%		情通:受講者数/対象者数
			100%	100%		システム実施項目/改善項目
②	法令手続きに関する知識の共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「法令手続情報提供システム」の改善完了(H20/9)</li> <li>*同システムへの登録拡大(累計7件/計画7件)</li> </ul>	100%	100%		登録拡大数/計画数
<b>24 法令手続きの確実な実施</b>						
①	許認可・届出の法令手続きの実施状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力:「許認可・届出等手続管理細則」等に基づき実施中</li> <li>・火力:「手続チェックリスト」等に基づき実施中(確認回数 累計3回/計画4回)</li> <li>・電流:「申請・届出一覧表」に基づき実施中(申請・届出件数 累計16件/16件)</li> <li>・土木:法令手続の定期的な確認(許認可・届出件数 累計326件/計画326件)</li> <li>・配電:「届出要否確認兼実績管理一覧表」に基づく確認(累計3回/計画4回)</li> <li>・通信:「総合通信局申請・届管理表」等に基づく確認(2回/計画4回)</li> </ul>			○	原子力
			92%	100%		火力:活動月数/12ヶ月
			100%	100%		電流:申請・届出件数/計画件数
					○	土木
			75%	100%		配電:点検回数/計画回数
			50%	100%		情通:点検回数/計画回数
<b>25 原子力を支えるプロを育成する仕組みの推進</b>						
①	他電力の良好な作業管理実務の研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他電力への派遣: 2回/計画2回 累計8名(H20/10、11)</li> <li>・他電力良好事例33件の当社への反映を検討</li> </ul>	100%	100%		派遣回数/計画回数
<b>② 現場技術者の育成</b>						
a	現場技術力向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位者同行/パトロール実績: 累計167名/対象者171名</li> <li>・「気づき能力向上研修」: 7回/計画8回、累計35名/対象者40名</li> </ul>	98%	100%		パトロール実施者数/対象者数
			88%	110%		研修受講者数/計画数
b	技術者倫理に関する教育を継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「原子力安全文化・モラル研修」: 5回/計画5回、累計196名/対象者150名</li> </ul>	131%	137%		受講者数/計画数
c	現場技術技能保有者による継承活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術マスター活動報告書受領: 2回(H20/4、10)</li> <li>・技術マスター意見交換会: 1回(H20/5)</li> <li>・技術マスター認定: 1名(H20/8)</li> </ul>	—			
③	法令を遵守するための保安教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実施: 累計88名</li> </ul>			○	
④	臨界事故防止に関する教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実施: 累計61名</li> </ul>				

\*進捗率での数値管理がそぐわない  
施策については、「—」で標記



# 再発防止対策の進捗率一覧(8/8) (H21/2月末実績・H21/3月末推定実績)

No.	実施内容	特記事項	進捗率		確実に実施	備考(進捗率の尺度等)			
			2月末	3月末推定					
<b>26 請負者との協働体制の推進</b>									
①	請負会社との連携強化による知識・技能の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力: 事前検討会出席: 241回、累計57名/対象57名</li> <li>火力: 安全パトロールを協働で実施: 181回/計画176回</li> <li>電流: 着工前打合せ時の請負者指導: 1,551回/対象工事1,404件</li> <li>土木: 着工前打合せ時の請負者指導: 673回/対象工事673件</li> <li>配電: 外線施工者への訪問点検: 3回/計画3回</li> <li>情通: メーカー品質管理状況の確認指導: 2回</li> </ul>	100%	100%		原子力: 出席者数/対象者数			
			92%	100%		火力: 活動月数/12ヶ月			
					○	電流			
					○	土木			
			100%	100%		配電: 点検回数/計画回数			
			100%	100%		情通: 指導、検討会等総合評価			
			②	当社と請負者との責任区分を明確にした工事の発注・契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力: 1号機第11回定期検査にて竣工検査を全数実施中</li> <li>火力: 改善された検査区分表を運用中</li> <li>電流: 使用前社内検査: 33件/対象工事 33件</li> <li>土木: 使用前社内検査等: 138件/対象工事 138件</li> <li>配電: 竣工検査の見直し完了</li> <li>情通: メーカー・装置毎に検査項目見直し実施完了、指針の改正・制定</li> </ul>	92%	100%		原子力: 実施月数/12ヶ月
						92%	100%		火力: 実施月数/12ヶ月
								○	電流
								○	土木
100%	100%					配電: 納期			
100%	100%					情通: 検査実施装置数/計画数			
③	元請会社の外注管理に対する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力: 外部監査実施件数: 4件/計画3件</li> <li>火力: 品質管理状況の確認及び指導</li> <li>電流: TBM参加: 1,187件/対象工事947件、乗込教育参加 405件/対象工事248件</li> <li>土木: TBM参加: 289件/対象工事 289件</li> <li>情通: 請負者安全衛生教育参加: 3回/計画3回、安全パトロール: 3回/計画3回</li> </ul>				133%	133%		原子力: 監査実施件数/計画数
						92%	100%		火力: 実施月数/12ヶ月
								○	電流
								○	土木
			100%	100%		情通: 教育・パトロール回数/計画数			
<b>27 臨界事故の再発防止対策の推進</b>									
①	最新の手順書の適用・遵守状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質保証パトロール等による確認実施</li> <li>「作業手順書」教育 累計53名</li> <li>工事前検討会への参画: 241回、累計57名/対象者57名</li> </ul>			○	パトロール・監査の指摘改善			
			100%	100%		事前検討会出席数/対象者数			
			②	作業管理システムを活用した作業管理の継続的改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項の提出を各課へ依頼(H20/6)</li> <li>システム改修計画策定(H20/7)</li> <li>作業管理システム改善策(累計 33件/34件)のシステムテスト実施(H20/12)、試運用開始(H21/1)、本運用開始(H21/2)</li> </ul>	97%	100%		更なる改善事項の中長期計画反映
③	運転員への明確な情報提供	警報分離後の運用実施中							
④	原子炉・CRD冷却水差圧上昇防止対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事完了(H20/4~10)</li> <li>インターロックの動作確認実施(H20/5)、保護柵取付(H20/10)</li> </ul>							
<b>28 再発防止対策の定期的な評価・改善</b>									
①	原子力安全信頼回復推進委員会による確認・評価	委員会開催: 39回							
②	再発防止対策検証委員会による検証・評価	委員会開催: 2回(H20/8、12)							

\*進捗率での数値管理がそぐわない施策については、「—」で標記